

2025年3月期 第3四半期

決算補足説明資料

2025年2月10日

証券コード:3741

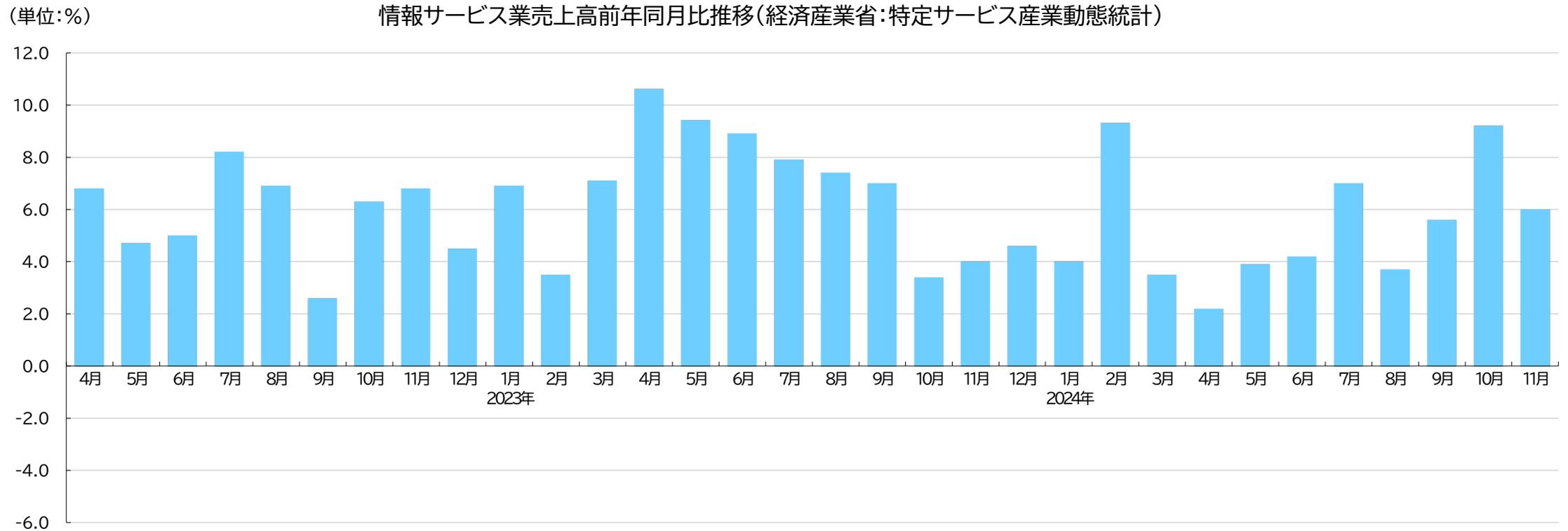


2025年3月期 第3四半期

決算概要

事業環境

月別売上高は前年同月比で増加しており、IT需要は全体的には概ね堅調と推察される



2025年3月期第3四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、
前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前年同期比	利益率
売上高	7,093	116.7%	
営業利益	1,249	118.3%	17.6%
経常利益	1,319	119.4%	18.6%
当期純利益	922	119.7%	

受注高、受注残高ともに過去最高

	当期（百万円）	前年同期比
受注高	7,539	133.1%
受注残高	6,215	185.8%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

官公庁向けの開発が引き続き好調であり、医療分野や防衛分野の開発も増加するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前年同期を上回り過去最高となり、受注残高も過去最高となった。

第3四半期損益計算書

	2024年3月期第3四半期 (百万円)	2025年3月期第3四半期 (百万円)	前年同期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	6,080	7,093	116.7	—	—
売上原価	4,249	4,935	116.2	—	—
売上総利益	1,831	2,157	117.8	—	—
販売管理費	774	908	117.2	—	—
営業利益 (営業利益率)	1,056 (17.4%)	1,249 (17.6%)	118.3	—	—
経常利益 (経常利益率)	1,104 (18.2%)	1,319 (18.6%)	119.4	—	—
当期純利益	770	922	119.7	—	—

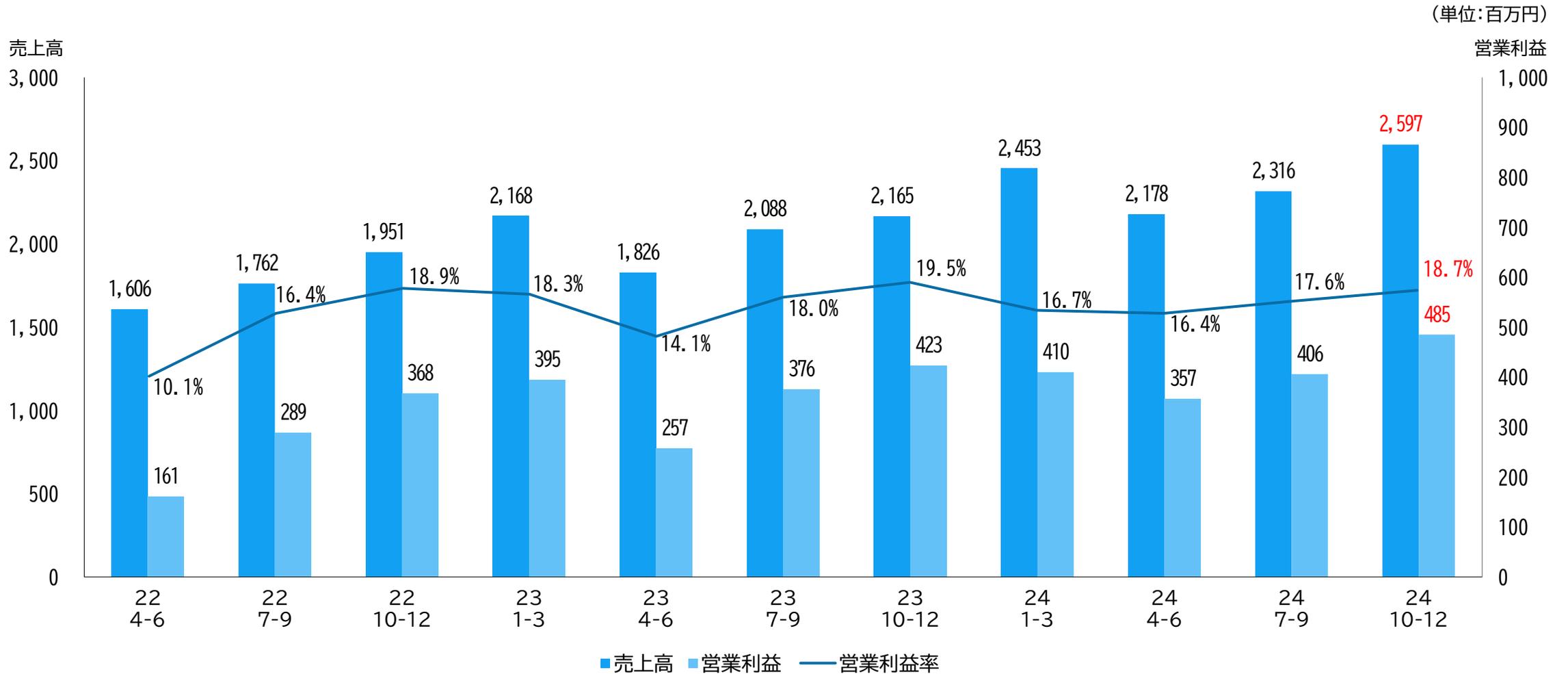
売上原価 外注費が大幅に増加（外注費 26.5億円、前年同期比29.6%増／売上高外注比率37.4%、前年同期比3.7%増）

販売管理費 新入社員の増加などにより労務費が増加、研究開発費は98百万円で、前年同期比で79.4%増

営業外損益 研究開発の補助金収入が増加（23百万円、前年同期比152.2%増）

四半期業績推移(PL)

2021年度第3四半期から、13四半期連続の前年同四半期比増収増益

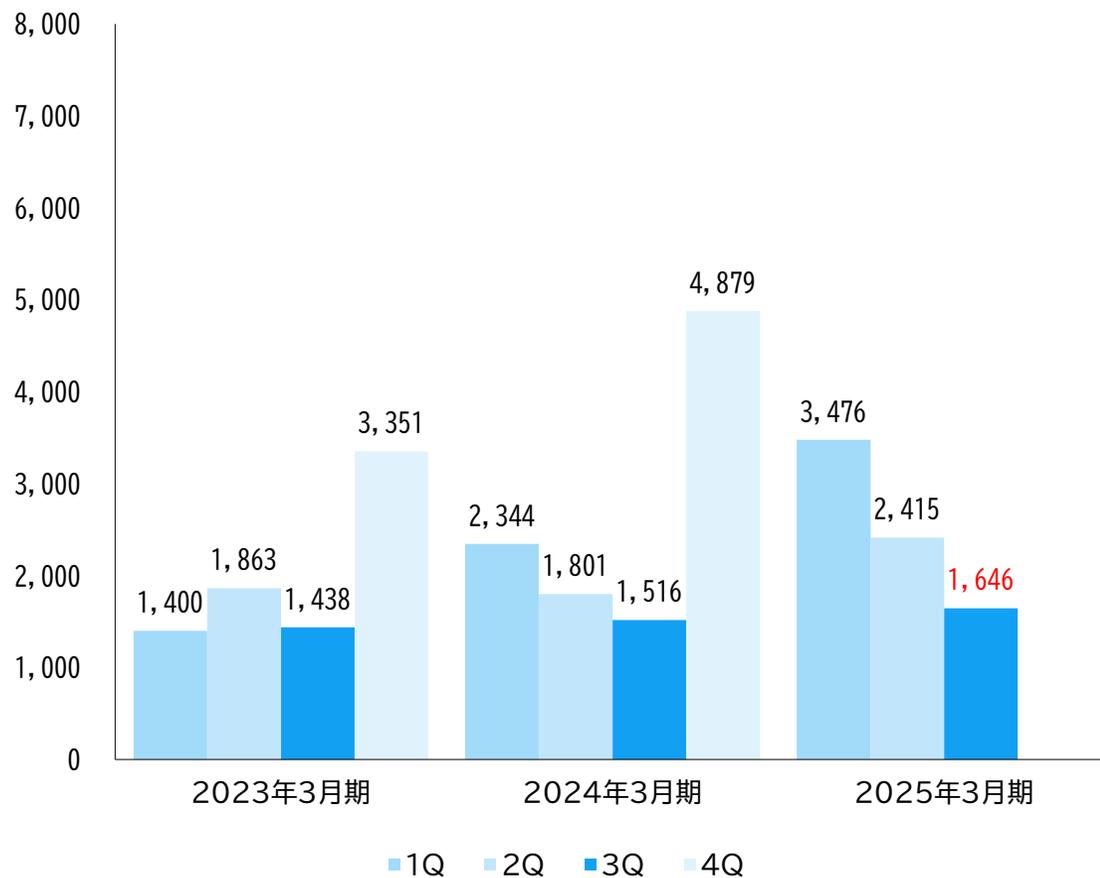


四半期業績推移(受注状況)

受注高、受注残高ともに過去最高

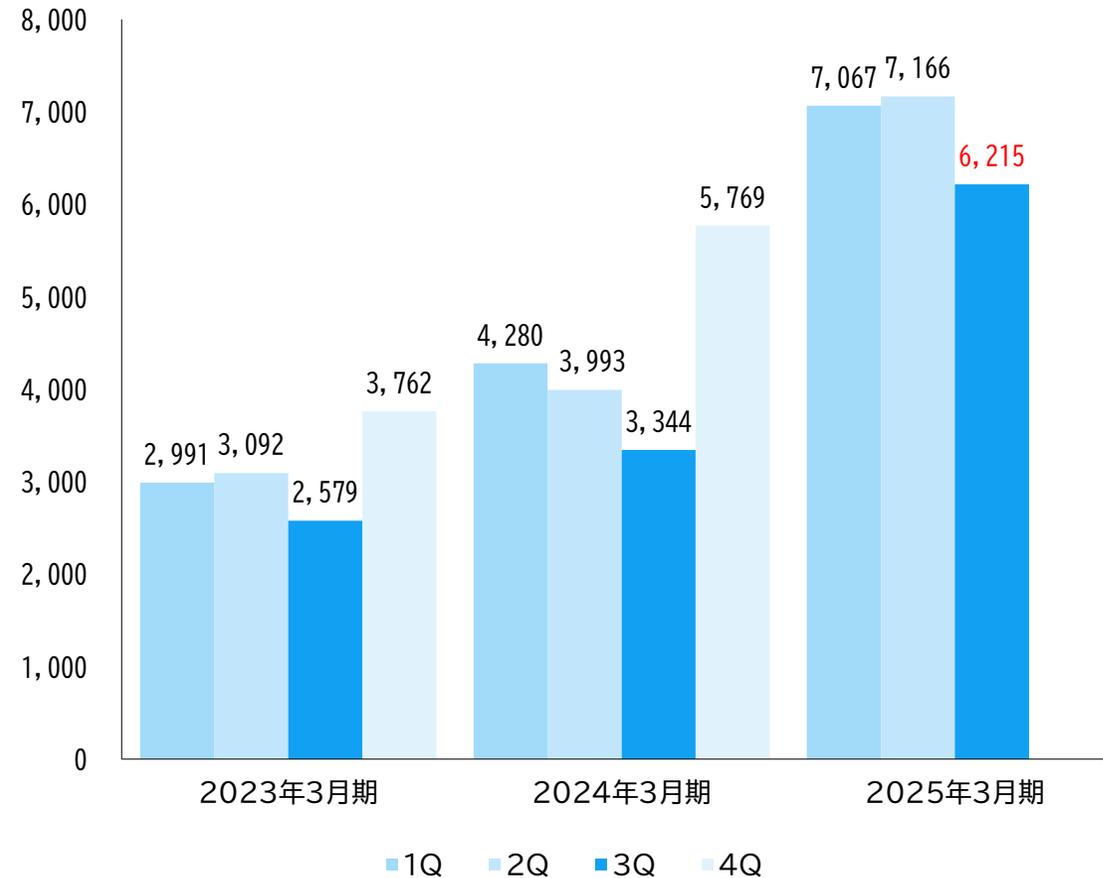
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



第3四半期BF別の状況

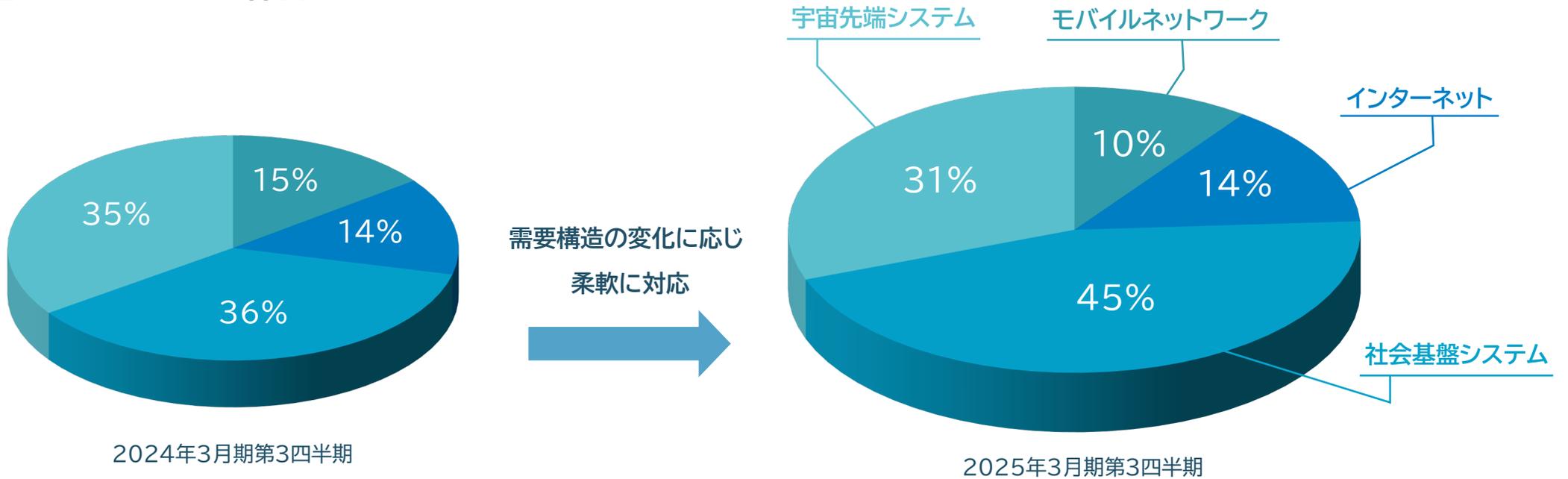
社会基盤システムBF、インターネットBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2024年3月期第3四半期		2025年3月期第3四半期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	900	14.8	711	10.0	79.1
インターネット	849	14.0	993	14.0	117.0
社会基盤システム	2,214	36.4	3,213	45.3	145.1
宇宙先端システム	2,116	34.8	2,174	30.7	102.7
合計	6,080	100.0	7,093	100.0	116.7

- モバイルネットワークBFは、スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が減少
- インターネットBFは、非接触IC関連の開発が堅調であることに加え、民間企業向けのDX関連の開発が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調であることに加え、医療分野や防衛分野の開発も増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件や宇宙ロボット関連の開発が増加

第3四半期BF別売上構成比

社会基盤システムBFが増加



モバイルネットワークBF

スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が減少

インターネットBF

非接触IC関連の開発が堅調であることに加え、民間企業向けのDX関連の開発が増加したが、全体構成比では変動なし

社会基盤システムBF

環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調であることに加え、医療分野や防衛分野の開発も増加

宇宙先端システムBF

車両自動走行の研究開発案件や宇宙ロボット関連の開発が増加したが、全体構成比では減少

第3四半期BF別受注状況

医療分野の大型長期案件の受注により、社会基盤システムBFの受注高と受注残高が大幅に増加

ビジネスフィールド	2024年3月期第3四半期		2025年3月期第3四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
モバイルネットワーク	933	319	673	72.1	195	61.4
インターネット	908	302	993	109.4	323	107.0
社会基盤システム	1,820	2,224	3,842	211.1	4,952	222.6
宇宙先端システム	1,999	498	2,029	101.5	743	149.1
合計	5,662	3,344	7,539	133.1	6,215	185.8

※ 受注残高のうち、今期売上貢献分は3,011百万円(前年同期比37.5%増)、来期以降売上貢献分は3,204百万円(前年同期比177.7%増)

- モバイルネットワークBFは、XR(クロスリアリティ)サービス関連の受注が減少
- インターネットBFは、非接触IC関連、民間企業向けのDX関連の受注が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの受注が増加、また、医療分野や防衛分野の受注が大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発や宇宙ロボット関連の受注が増加

2025年3月期

通期業績見通し

2025年3月期業績見通し

売上高、利益面ともに計画を上回る見込みであるため、業績見通しを上方修正

	2024年3月期実績(百万円)	2025年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	8,534	10,100	118.3
売上原価	5,983	7,070	118.2
売上総利益	2,550	3,030	118.8
販売管理費	1,083	1,250	115.4
営業利益 (営業利益率)	1,467 (17.2%)	1,780 (17.6%)	121.3
経常利益 (経常利益率)	1,547 (18.1%)	1,880 (18.6%)	121.5
当期純利益	1,105	1,300	117.6

売上高 官公庁向けの開発が好調であることに加え、医療分野や防衛分野の開発も大幅に増加し、前期比約18%増を見込む

売上原価 社員数増加や待遇向上による人件費の増加、外注費の増加などにより、増加を見込む

販売管理費 新入社員の増加などによる労務費の増加、研究開発の増加などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入の増加などにより、増加を見込む

当期純利益 前期は賃上げ促進税制の適用により増加したが、今期は税金費用を法定実効税率どおりで計算

2025年3月期BF別業績見通し

社会基盤システムBF、インターネットBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

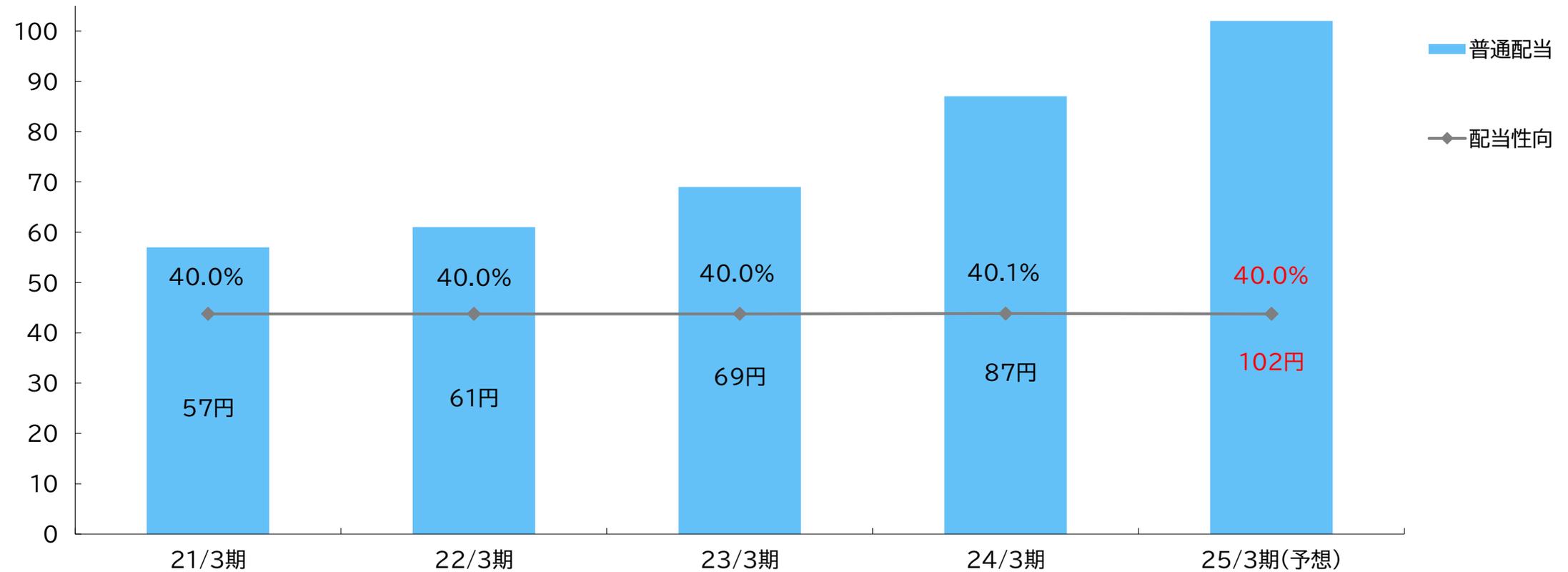
ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第3四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が減少し、微減	➡	スマートコンストラクション関連の開発が堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が想定以上に減少し、下回る展開	➡
インターネット	民間企業向けのDX案件が継続するものの、他のBFとの人員配分の最適化により、前期並み	➡	非接触IC関連の開発が堅調であることに加え、民間企業向けのDX関連の開発が増加し、想定を上回る展開	➡
社会基盤 システム	環境分野や医療・福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調で、増加	➡	環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が好調であることに加え、医療分野の大型案件や防衛分野の開発が増加し、想定を上回る展開	↗
宇宙先端 システム	サービスロボット関連の研究開発案件や宇宙関連の開発が堅調に推移し、増加	➡	車両自動走行の研究開発案件や宇宙ロボット関連の開発が増加し、ほぼ想定どおりの展開	➡

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2025年3月期業績見通しの上方修正に伴い、配当予想を11月11日発表の1株当たり97円から102円に修正。

(単位:円)



ご参考: ニュースリリース一覧(2024年11月~2025年2月)

2024年		12月17日	<u>日経クロステックに当社のエッジAI(レザバーコンピューティング)の取組みが掲載</u>
11月13日	<u>NIHONBASHI SPACE WEEK 2024に出展</u>	2025年	
11月13日	<u>AI・人工知能EXPOに出展</u>	1月 6日	<u>自動運転AIチャレンジ2024で入賞</u>
11月13日	<u>JSCAS(日本コンピュータ外科学会) AI Challenge で入賞</u>	1月17日	<u>ロボデックス(ロボット開発・活用展)に出展</u>
11月27日	<u>ストックボイス「東京マーケットワイド」に代表取締役社長 櫻井が出演</u>	1月21日	<u>宇宙航空研究開発機構(JAXA)より国際宇宙ステーション(ISS)「きぼう」日本実験棟 自動実験システム(GEMPAK)の開発に関する業務を受託</u>
11月29日	<u>インテリジェントホームロボティクス研究会にてエッジAI(レザバーコンピューティング)に関する研究成果を発表</u>	1月30日	<u>世田谷区 STEAM教育講座「宇宙ステーションではたらくロボットをプログラミングしよう!」に協力</u>
12月 6日	<u>当社が開発に参画している月面跳躍ロボット「まいど2号」が大阪・関西万博のトライアル展示イベントに出展</u>	2月16日	<u>STOCK VOICE「資産形成フェスタ2025」in 東証アローズOnlineにて企業IRセミナーを開催(予定)</u>
12月11日	<u>計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2024)にて「生成AIを活用したロボットのタスク生成」に関する論文発表</u>		
12月11日	<u>日本証券新聞社主催のIRセミナーにて会社説明会を開催</u>		
12月12日	<u>当社が支援しているアストロスケールの商業デブリ除去実証衛星「ADRAS-J」が宇宙空間でデブリから約15mの距離まで接近に成功</u>		

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましてはいかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。